

子どもの暮らしを支援する 作業療法の世界

首都大学東京健康福祉学部
作業療法学科
伊藤祐子

作業療法について

- 作業療法 Occupational Therapy
- 作業療法士 Occupational Therapist
- 現在日本には約7万人のOTがいます
- リハビリテーションを行う職種です
- 医療・保健・福祉・教育・労働などに幅広く関わっています
- 作業を通して、障害を持つ人々の生活を支援し、その人らしく生き生きと暮らしていくためのお手伝いをします

オーティ

どちらもOT

OTの対象



- 疾患や障害の種類、年齢を問わず、生活機能に障害を持つ人全てを支援します。
- 小児の対象者

肢体不自由、重症心身障害、知的障害、発達障害（自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等）、先天性疾患、後天性疾患、神経筋疾患、外傷後遺症、内部障害など

発達障害とは

- 胎内にいるときから、18歳頃までに受けた障害が、その人の生活に生涯にわたり重篤な影響を及ぼす場合を発達障害という。
- 診断としては脳性麻痺、てんかん、精神発達遅滞、染色体異常、神経筋疾患、発達障害など多種多様な症状と生活障害を持つ。
- 発達障害（発達障害者支援法による定義：2005）自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害（PDD）、学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの。

OTの思考のみちすじ

困ったな・・・



- ・ どうして上手い
かないのかな？
- ・ 原因はなんだろう
- ・ どんな支援方法が
あるかな

暮らしやすくなったよ！



OTの基礎知識
基礎医学（解剖学・生理学）
医学的知識（各種疾患）
運動学（運動を分析します）
感覚統合
各種理論，評価・支援技術
福祉用具・自助具など



そうだ！
こうすればできるかも！

OTの視点

例えば食事に課題がある場合

感覚機能
視覚、聴覚
嗅覚、触覚
味覚

食欲など動機付け「おなか空いた〜」「美味しそう」「食べたい！」

上肢の機能
安定した肩
肘や手首、指を細かく動かす土台

姿勢を保持する機能
頭を支え、座った姿勢を保持する
体幹の機能

利き手・左右の分離
右手でお箸、左手でお弁当箱を押さえられるよ

環境
心身の状況にあった机、テーブルや椅子、食器、道具



子どもの生活

健康状態

心身の機能・構造

運動機能
感覚機能
四肢・体幹の構造など

活動

すべての日常生活活動
食事・整容・排泄・更衣
入浴・遊び・書字・
道具の使用・学習
など

参加

集団, 療育, 保育, 学校
家庭, 社会, 習い事,
サークル
など

環境

こどもを取り巻くすべての環境
家族, 友人などの人, 人の態度
車いす, 学用品, 自助具などの物
地形, 気候など自然環境
サービス・システム・政策
など

個人の因子

性別、人種、年齢、体力、
ライフスタイル、
習慣、生育歴、困難への対処方法、
社会的背景、教育歴、職業、
過去および現在の経験、
全体的な行動様式、性格など

心と身体の発達支援 1

- 生後体験するさまざまな感覚—運動経験

見る、聞く、触る、動く

自分の身体への気付き

環境への気付き

目と手、目と口の出会い

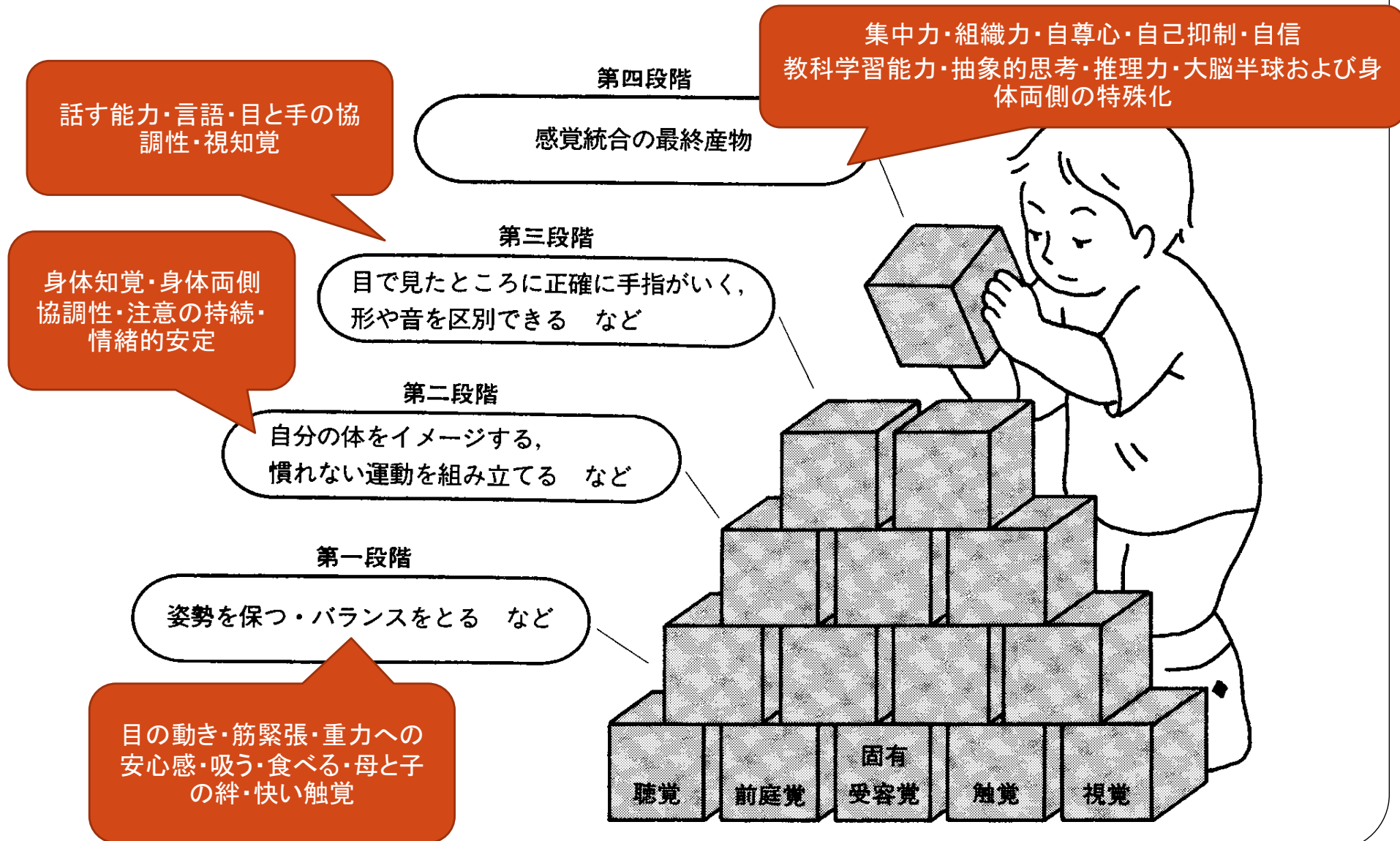
心地よさ・楽しさなど



いろいろな遊びを通して支援します

心と身体の発達支援 2

- 基本的な姿勢・運動の発達や感覚統合機能の発達、手の使い方の発達促す支援を行います。



環境：個々のニーズに対する支援

- 子どもが「こんなことをしたい、やってみたい」「出来るようになりたい」「そうなることが必要」といった、個々の様々なニーズに対して、その方策を考え可能になるよう支援します。



移動のための道具の一例

環境：姿勢保持



子どもの状態、使用する状況に合わせて機器を選んだり調整したり、
製作に立ち会ったりします

環境：道具の工夫

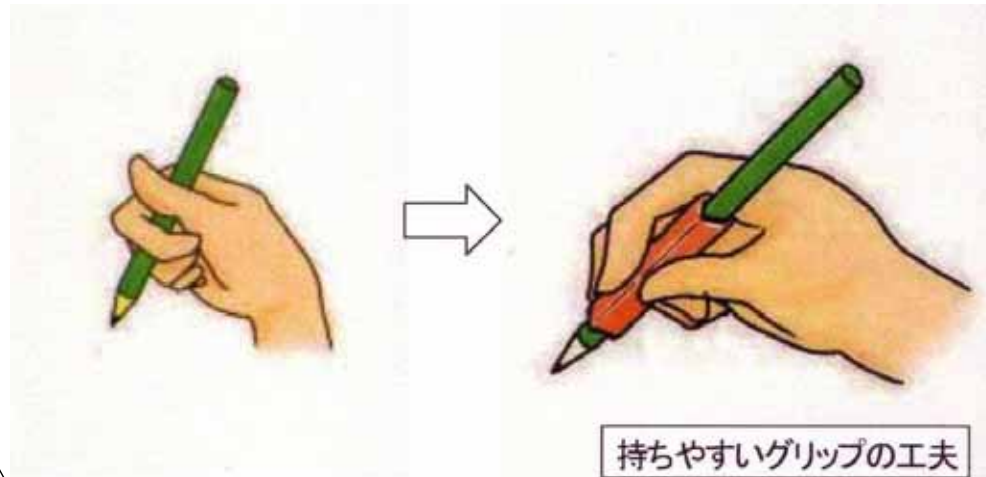
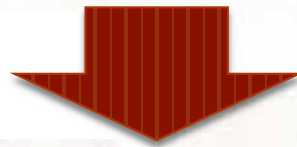


子どもの状態と、求められる作業に応じて、道具や方法を工夫します。道具はOTが自作する場合もあれば、市販品を使用することもあります。少しずつ段階をつけて、なるべく少ない支援での活動を目指します。

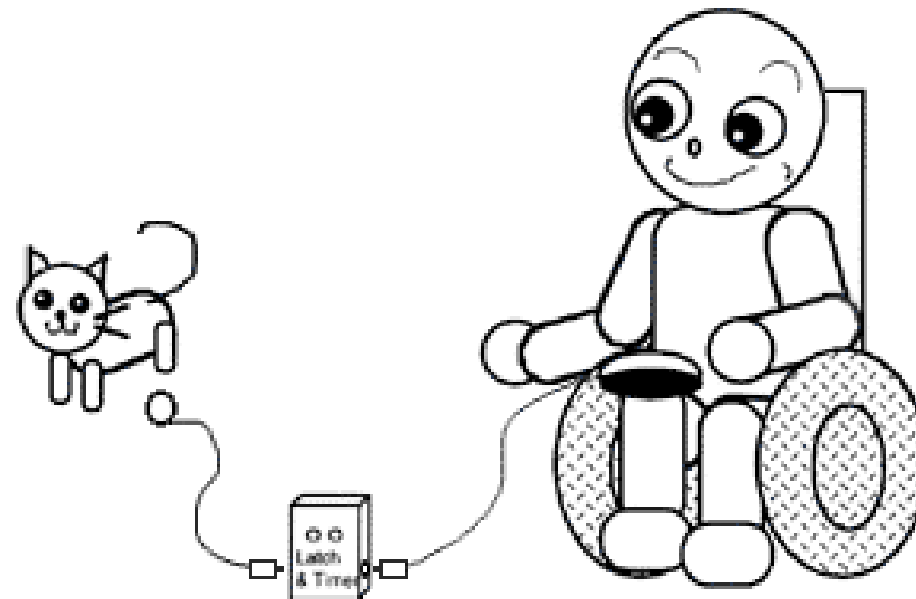


道具の工夫の例

- 鉛筆が上手く持てず、筆圧も弱い(高すぎる)場合



環境：シンプルテクノロジーの利用



AAC: Augmentative and Alternative Communication
補助・代替コミュニケーション

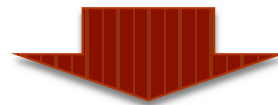


シンプルテクノロジー
スイッチ, BDアダプター,
スイッチラッチ&タイマーなどの利用

環境：感覚の過敏さに対する支援

- 触覚の過敏な場合

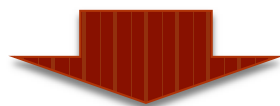
- 例えば、軽く触れられただけで「不快」に感じたり、「痛み」に感じたりすることから、「怒る」「たたく」などの乱暴な行為になる
- 衣服の感触が気になって落ち着かない
- ベタベタした感触が苦手な作業に上手く参加できない、濡れた口うきんが持てないなど



- なるべく不意に触れないようにする
- 教室ではなるべく机の少ない後ろの机などで参加する
- 集会では後ろの方から参加するなど
- 白い目や目め付けのない衣服を選ぶなど
- ベタベタした口土などはラップでくるむ、カクコくるなど
- 口きくをくせるなど



- 聴覚が過敏な場合
 - 友達や教室内の大きな声や音に耐えられない など
- 視覚が過敏な場合
 - 光がまぶしすぎて、目を開けていられない、黒板の文字が読めない など



聴覚に対して

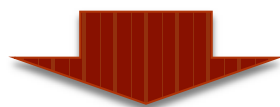
なるべく騒がしくない環境にする

イヤーマフやノイズキャンセリングヘッドフォンを使う など

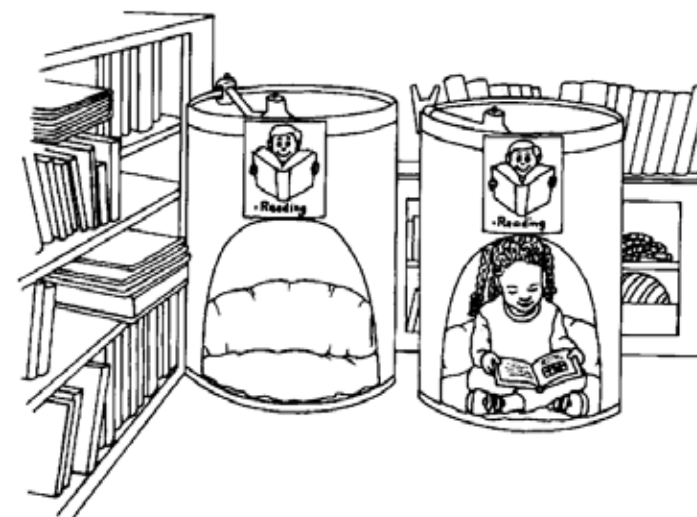
視覚に対して

光の差し込まない席に座る

サングラスを使用する など



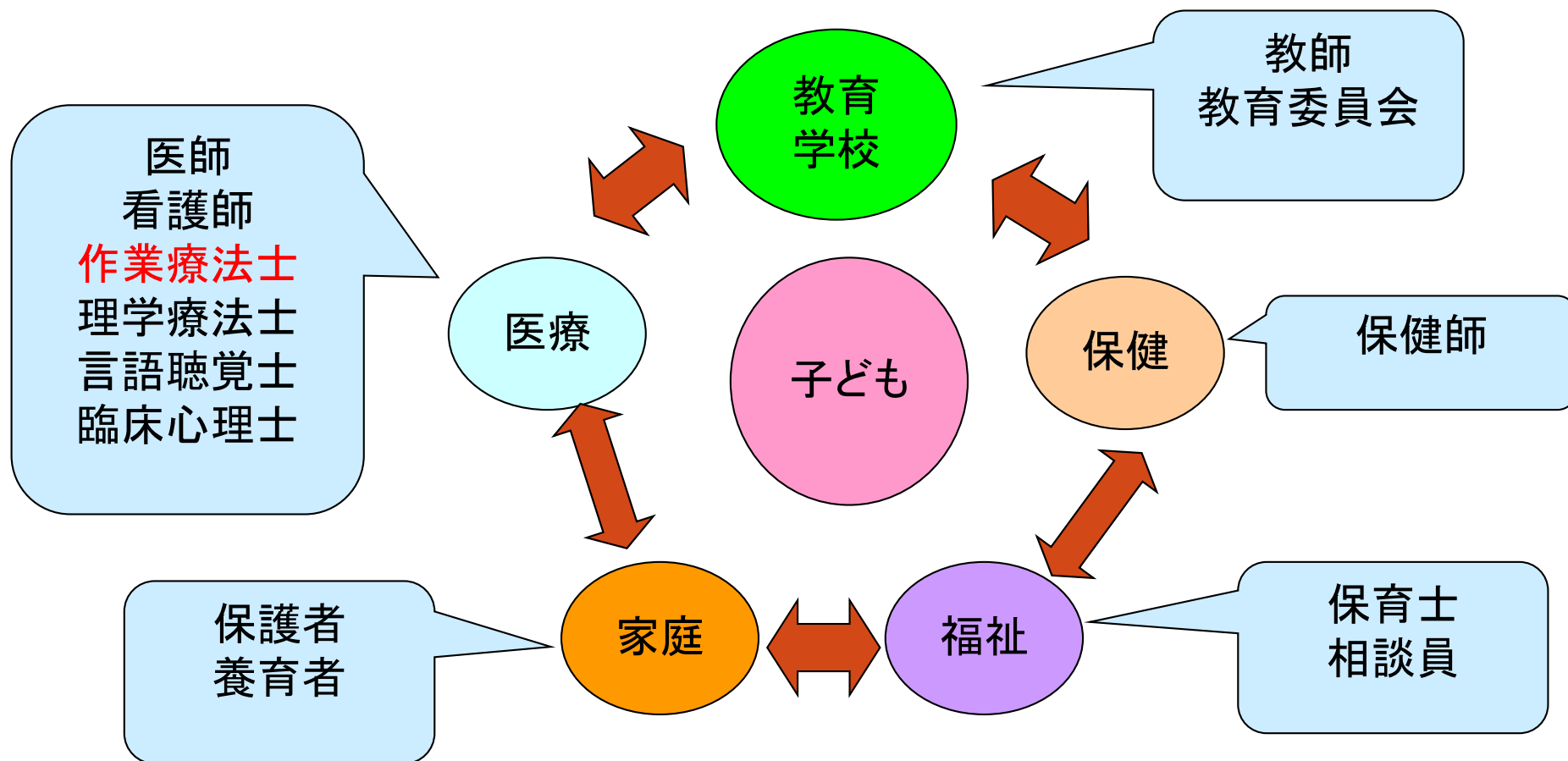
いずれも、感覚の過敏さにより落ち着いていることが難しくなった時に落ち着けるスペースを確保しておく和良好的



Reading barrel

子どもに関わる多職種との連携

- 保護者や関わる他職種と常に連携、相談しながら、子どもの現在と将来にわたる生活を考慮して地域で生き生きと生活できるよう支援します。



おわりに

- OTは子どもの暮らし、家族の暮らし、地域での暮らしに寄り添い、一人一人のお子さんにオンリーワンのプログラムで支援します。
- 生活の中で困ったことがあれば、そこはOTの出番です。
- OTについてもっと知りたいときは、
(社)東京都作業療法士会 <http://tokyo-ot.com/>
(社)日本作業療法士協会 <http://www.jaot.or.jp/>

